

【参院選特別企画】 もし私が政治家になるなら



開催日時：2022年7月3日（日） 実施形態：Zoom

参加者数：15名（高校生・大学生・社会人10名，運営メンバー5名）

話題提供者：別木萌果さん（公立高等学校）

「選挙」＝「与えられた選択肢の中からマシなものを選ぶイベント」と消極的な思っている方も多いのではないのでしょうか？今回の第16回スタディ・スタヂオでは、第26回参議院議員通常選挙の投開票（7月10日）を控えたタイミングで、「もし私が政治家になるなら、どのような政策を実現したいか？」について参加者の皆さんが立候補者になりきり発表しあうオンラインセミナーを開催しました。

今回は、特に「子ども」や「若者」に関する政策に焦点を当て、①各党がどのような公約を掲げているか、複数のサイトから情報収集する方法について、②「選挙」以外で政治に参加する方法について、③「子ども・若者政策」に関する提案について、参加者の皆さまと議論しました。

セミナーには、国政選挙の投票権を持つ大学生・社会人とともに、まだ国政選挙の投票権はない現役高校生も数名参加しており、ユニークな政策提案がなされました。そのいくつかをご紹介します。

- 政治家の数を減らす。
- 消費税をゼロにして消費を促す。
- 報道の自由が守られるようにする。
- 国民全体で政策評価をし、その結果を常時公表し、政策の見直しに反映させる。
- 寝たきりの人でも投票できるようなりモート選挙を実現する。
- 国会をオンラインで行えるようにする。
- エネルギーの100%を再生可能にする。
- LGBTQの結婚をOKにする。
- 移民受け入れを推進する。
- 大学生までに1度は山村留学・海外留学を！という教育政策の実現とそのための環境を整える。
- 塾の無償化、専門的な勉強ができる場の公共化。
- 子どもに分かりやすく解説してくれる動画や番組がほしい。
- インターネット投票の実現（マイナンバーカードと関連付けつつ）。
- 家計に関わる税金の減税。
- 「学校行きたくない時は、学校行かなくてもいい法案（義務教育の「義務」の再定義）」。
- 選択的夫婦別姓・男性育休の義務化。
- 最高気温が35度を超える日は休校・仕事も休み！
- 所得倍増の実現。
- 高等教育までの無償化（財源が少なければ所得平均以下は対象）。
- ライフ確保法（ワークを減らすのではなく、ライフの確保）。
- 政治家は、子ども（小中高大）に向けて、数年に一度の政策実現状況を報告する義務を負う。

もちろん、これらの提案が全て現実的に法案化できるわけではないと思います。しかし、「子ども・若者政策」を「子ども・若者本人」が提案し、声を挙げてみることで、「大人・高齢者」、そして「政治家（国会議員）」とは違う当事者意識が少しだけ見えてくるようにも思います。本セミナーは、そうした「子ども・若者」の声を拾えたことに意義がありました。

（企画運営：別木萌果，斉藤仁一朗，岡本愛香，浜田未貴，玉井慎也，報告担当：玉井慎也）